

第4回 栗東市観光振興会議 会議概要

■日時：令和7年2月3日（月） 午後3時00分～午後5時00分

■場所：栗東市危機管理センター2階 防災研修室

■出席：《委員》

築地 達郎委員（会長）、田中 由美委員（副会長）、岡山 光雄委員、三木 茂委員、
高野 秀樹委員、北川 寛人委員

《オブザーバー・運営組織》

一般社団法人栗東市観光協会 山口 翔太郎事務局長

《委託事業者》

（株）しがぎん経済文化センター

《事務局》

商工観光労政係長、商工観光労政課事務局担当

■欠席：《委員》

林 優里委員、濱田 康之委員、鶴田 泰伸委員

1. 開会

（商工観光労政課 課長補佐）

2. 市民憲章唱和

3. あいさつ

（築地会長あいさつ 省略）

（事務局）

- ・本会議内容は原則公開。
- ・本日の傍聴者は0名。

4. 報告事項

（1）令和6年度栗東観光案内所の運営状況について（資料1）

○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

とくになし

5. 協議事項

(1) 第一期栗東市観光振興ビジョンの最終評価（案）について（資料2）

○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

会長：今日は最終評価を確定させたいので、内容の確認をお願いしたい。事務局が読み上げなかった点について、私から補足的に読ませていただく。

最終評価案の表面、基本方針Ⅰの二つ目の点（・）は「観光入込客数の上位施設は道の駅や農産物直売所となっており、地元の食材や土産物を購入できる施設を観光の玄関口として活用できる可能性がある」と修正した。三つ目の点、「第六次総合計画において位置づけられている『馬を生かしたまちづくりの推進』は、観光においても今後の取り組みを広げていく余地がある」と修正した。裏面、基本方針Ⅱの二つ目の点について、「コロナ禍以降は安定的にイベントが開催できるようになり、県内外の物産展に積極的に出展を行い、本市の認知度向上に向けた啓発が行われた」と事実関係を記載した。三つ目の点は「交通については自動車以外の移動手段もあるものの、依然として自動車での来訪の割合が高くなっている。また、栗東市の観光客は日帰り客の割合が高くなっている」「通過型の観光地として利用される傾向にある」と修正し、四つ目の点の「お土産品の種類や購入場所については、消費者からニーズを満たしている」とは言い難い状況である」は実態を直視した内容にした。

委員：裏面の二つ目の点、「コロナ禍以降は安定的にイベントが開催できるようになり」というところは、「コロナ禍以降」だとコロナ禍が入ってしまうので、「コロナ後」などの方が明確だと思う。

会長：その通りだ。意味としては、コロナ5類移行後ということなので、一般的に理解できる「コロナ禍収束以降」でいいと思う。

この最終評価案は本日の会議終了までに確定したいので、気づいた点はそれまでにご指摘いただきたい。

(2) 第二期栗東市観光振興ビジョンの素案について（資料3）

○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

会長：事務局に補足説明をお願いしたい。素案について、前回会議からの変更点を具

体的に紹介いただきたい。

事務局：今回、22 ページを「資料」として新たに追加している。ここで、今後5年間の計画中に行う事業について検討し、観光入込客数や観光消費額などの想定数値も記載する形式にしている。

会長：前回からの大きな変更点だ。22 ページについては、かなり突っ込んだ議論を私と事務局で行い、文言の細かい点まで意識して調整した。

具体的には、まず右上の表の観光入込客数について、元は「目標数値」となっていたが、「想定数値」に変更していただいた。その理由は、これまでの会議で繰り返し申し上げているように、観光入込客数を目標として政策を運営していくのは、栗東市の観光振興を考える上で必ずしも適切ではないだろうと考えるからだ。

ただ、何らかの数値がないと対外的に説明しにくいという考えも一定理解できるので、それならば「想定数値」としていただきたいとお願いして、事務局と合意した上で提案している。また、観光消費額も「想定数値」とした。

一方で、目標として掲げるべきなのが「再訪意向率」に代表されるような栗東市への愛着や親しみなどの指標だ。これはやはり「目標数値」にしておいていいのではないかという結論になり、90%という高い数値ではあるが、栗東市の観光をより魅力的なものにしていこうという数値として挙げた。ただ現在の第一期ビジョンの実績と第二期ビジョンの目標数値との差は極めて小さいので、これは精神的な数字であるとしてご理解いただいて良い。

それから、22 ページの下の方だが、第二期ビジョンにおいて基本方針1・2は第一期から変更せず、一方で基本戦略や基本事業は組み替えを行った。取り組み例を複数挙げているが、これはあくまで例であって、第二期ビジョンが始まるにあたって、行政および連携機関である観光協会において具体的に考えて実施していただきたいものだ。

さらに右の列が具体的な事業のイメージということだが、「金勝地域における山の施設の整備」「旧和中散本舗特別公開」などとあるように、具体的な施策に落とし込んでいって、実施主体を明確にしながら実施していただきたい。

そして一番右の列の期待される効果が大事だと思うが、基本戦略1に当たるところでは「既存の観光素材の魅力向上」、基本戦略2では「観光の拠点となる施設の整備」と「市内観光施設の認知度向上」のような効果を期待したい。さらに基本戦略3については、「安心・安全な観光の実現」や「効果的な情報発信」の実現を期待したい。

基本戦略4は、第一期ビジョンの特徴でもあったが、行政がやるべきことと民

間経済界などでやるべきことを明確化した。そして観光協会が実施団体となっ
ていただき、その活動を市として支援するという構造をとっていただいた。そ
の延長線上で、第二期ビジョンでは観光協会との連携はもちろん、栗東市内外
あるいは栗東市役所内の各部局などとの連携を高めてもらう必要がある。

その上で、期待される効果として「広域的な観光振興の促進」を挙げている。
栗東市単独より近隣自治体や関連団体と広域的に連携して取り組むほうが観光
客のメリットも大きいだろうと考えた結果だ。

最後に、観光に関する統計やデータの整備・利活用ということで、「多様な環
境ニーズの把握」はやはり行政の役目としてしっかりやっていただきたいと期
待している。このように、この会議体として行政および関連団体の皆さま方に
期待することをこの表にまとめたということだ。以上、補足説明をさせていただ
いた。

委員：全体的にすごく見やすくなった。「再訪意向率」が現状の 87.2%から目標数値
90%に上がるという前提で今からお話したい。実施主体名として市や観光協
会などが記載されているが、この「市」というのは商工観光労政課を指してい
るのか。今後、目標値を上げていくとすれば、主体をより具体的にしないと
「誰かがやるだろう」という感じで漠然としてしまうのではないか。「市」とな
っているところを「～課」のように具体的にしたほうがいいのではないか。ま
た、データの収集や提供に関しては、今回、しがぎん経済文化センターさんに
協力いただいているが、今後はもう入ってこないのか。せっかくこうして連携
して、会議にも毎回参加して動いていただいているが、実施主体として記載し
ないのか。

事務局：まず二点目のご質問について、市がしがぎん経済文化センターに業務を委託し
ており、市の事業の一環になるので「市」の中に含まれる形となっている。
一点目の実施主体の「市」の表記については、観光振興は当然、私ども商工観
光労政課が主な担当課として取り組むことになるが、山や文化財などいろん
な形で他の課を巻き込んでいく必要があると思っている。あえて具体的な名前は
書いていないが、ご理解いただければと思う。

会長：補足して申し上げますと、第一期ではロードマップを作り、結果として振興会議
の役割はロードマップの進捗を管理するというものになった。今回、事務局と
調整した際、5か年計画を立て、それを実現するという業務ではないという整
理をした。その上で、期待される効果を明確化することで、それを実現する活
動をその都度考えて実施していただくのがいいと整理した。そのため、第二期

ビジョンではロードマップは出てこないことになった。

従って、今委員の方からご指摘いただいた点について、次年度はどの部局をどう巻き込んで、どのような活動をどこまでやるのか、つまり誰がいつ何をどのようにやるのかについて、毎年、実施計画を立てていただいて、ビジョンに関する施策についてはこの会議体に必要に応じて報告していただくという理解をしている。

さらにロードマップの弊害は、事務局の担当は人事異動で変わるため、結果としてロードマップが独り歩きをしていくことになってしまう。そのため、ここは単年度主義に立ち返って、その都度、来年度はどういう予算立てをして誰がいつ何をどうするか、どこの部局を動かすかといったようなことを明確化してご報告いただきたいと思っている。そのような経緯でこの案を作成したが、委員の皆さん方いかがだろうか。基本的な考え方はご理解いただいたと認識させていただきたい。

委員：22 ページの実施主体についてだが、具体的な事業として旧和中散本舗や金勝地域の山の施設について記載しているので、自ずと担当課名は出てくると思う。具体的な事業が書かれているのに、実施主体が「市」となるのは、その必要性がないからなのか。はっきり記載した方がいいのではないか。

委員：観光協会はメンバーが変わることはあまりないと思うが、市の担当は年度で変わっていく。実施主体について簡単に「市」「観光協会」と書いてあっても、度々、課が違っていったら観光協会も大変なのではないか。もう一点、20 ページの図の中で、観光振興会議の事務局は市の観光商工観光労政課となっていて、その横に「事業がビジョンに沿って遂行されているか評価」をするとある。この評価は今のこの状態だとちょっとやりにくかったり、ぼやけたりするのではないか。

会長：別の論点であるが、期待される効果というものを評価する方法を明示するべきではないかという指摘かと思う。事務局で何か考えがあるだろうか。

事務局：第二期の評価だが、先ほど会長の説明にもあったように、第一期はロードマップで進捗確認をしていた。例えば22 ページの具体的な事業…あくまでも予定だが、一番上の「旧和中散本舗特別公開」で言うと、できた・できなかったの評価だとマルかバツになってしまうが、そうではなく、5段階くらいに分けて評価することも可能ではないかと思っている。第一期のようなロードマップでどこまでできたかを評価するのは抽象的でわかりにくかったと思うが、第二期で

はいくつか段階を作りながら評価の方がわかりやすいのではないか。小中学校の通信簿のようなイメージだ。

実施主体の「市」については、具体的に書き過ぎると、その担当部局しかやらないということになりかねないことを危惧している。例えば、和中散本舗の公開なら商工観光労政課とスポーツ文化振興課になると思うが、和中散本舗についてはスポーツ文化振興課以外の課も含めて検討している事業もあるので、市が組織として取り組むという意味で、あえて実施主体を「市」としている。

会長：評価の方法について、事務局から5段階評価についての話があったが、私はそのような方法ではなく、期待される効果、例えば一番上の「既存の観光素材の魅力向上」がどの程度できているかを評価する、そのためにどのような具体的な事業を並べるべきかということを考えるのが順序ではないかと思う。

では期待される効果として「既存の観光素材の魅力向上」をどうすれば評価できるのかというと、いろいろな工夫の仕方があるが、人々がどう思っているかを調査するのも一つの指標だろう。何かメルクマールになるような対象を一つ決めて、例えば和中散本舗が魅力的なものであるかどうかをアンケート調査するというようなやり方になるのではないか。いわゆる KPI を導入するのが適切ではないかと思う。

KPI はキー・パフォーマンス・インデックスの頭文字で、定性的な状態の変化を定量的に把握するために仮に置く指標のことだ。例えば、「観光素材の魅力向上」というものを考えるとき、定点観測をするポイントに来た人たちの表情を把握する、あるいはそこに来た人たちの人数構成、親と子どもなどの構成など、ミクロな状態かつ数値で数えられるものを見つけ出して、それを指標として扱うというやり方だ。現場に即して皆が合意しながらその指標を見つけ出していくという作業が必要になるので、本気でやろうとするとそれなりに大変だが、私のような者も含めて外部の人間の知識を動員していただいて、期待される効果が適切に把握できるような KPI の発見を事務局としてぜひ工夫していただきたい。これは一委員としての意見だ。

委員：私もまさに同感で、先日事務局に提出した意見シートに書いたことだ。要は数値化しやすいものばかりが目標になってしまうと顧客満足度が測れないと思う。家族構成や何人来たかは数値化しやすいのでわかりやすいが、どう感じたか、何に満足あるいは不満だったか、来訪理由は何かといった定性的なことをどう測るかとなると、おそらくアンケート調査をして数値化しないと我々は評価できないのではないか。そこがすごく大事だと感じている。

委員：22 ページの想定数値について、観光入込客数は約 30 万人増加し、観光消費額は約 10 億円増加し、再訪意向率は 2.8 ポイント増加するという案だが、どのような方法で算出したのか。

事務局：観光入込客数は、過去のトレンドを踏まえ年々増えていく数値を 5 年間積み上げて約 27% 増とした。この 27% を概ね 30% と考えて、観光消費額は日帰り客・宿泊客とも 30% 増加とした。再訪意向率は「また来たい」という意向であり、栗東市に対して前向きあるいは気に入っていただいていると判断でき、顧客満足度とほぼ同じようなものと考えている。私は以前、栗東芸術文化会館さきらの担当をしており、そこでの顧客満足度は概ね 90% ぐらいが最大値という認識だ。

事務局：補足説明したい。まず観光入込客数を先に試算した。第一期ビジョンでは、基準年の平成 29(2017)年に対して、結果の計測年は令和 5(2023)年だったので、この 6 年間の観光入込客数の増加を成長率という形に変換した。また、直近の令和 6(2024)年の入込客数については上半期の数値から年間推計値を算出した。これらを元に第二期の 5 年間で過去の成長率と同程度に入込客数が伸びると想定して算出した結果が、想定数値の 131 万 8,000 人。5 年間の増加率では 27% 増、約 3 割増となっている。過去 6 年間で宿泊施設が増えたため宿泊者数の増加がかなり大きかったが、今後 5 年間も同様に増加することは現実的ではないと判断した。そこで直近の令和 6(2024)年の年間推計値を見ると、入込客数のうち宿泊者数は約 1 割で、この割合は近年似たような傾向だったため、5 年後も宿泊者数が全体の 1 割程度と想定した。

次に、この観光入込客数をベースに観光消費額を試算した。日帰り客と宿泊客の消費単価を試算して、それぞれ 5 年後に想定される観光入込客数を掛けて算出している。

ここでも過去 6 年間で宿泊客の消費単価の伸びが非常に高く、今後 5 年間も同様に増加することは現実的ではないと判断した。そこで、入込客数が 5 年間で約 3 割増えるので、観光消費単価も日帰りと宿泊でそれぞれ 3 割増加を想定し、39 億 7,600 万円という想定数値とした。

会長：今のような説明なら、想定数値、目標数値ともにもっと丸めた数字のほうがわかりやすく、説明のストーリーに合っているように思う。例えば「観光入込客数 130 万人程度」「観光消費額 40 億円程度」「再訪意向率 9 割以上」のほうが実態に合っているのでは。

事務局：市の総合戦略で具体的な数字が必要なため、“概ね”という表現は難しい。業務の上で現場サイドとしては 130 万人程度という形で捉えることは可能かもしれないが、書面では 131 万 8,000 人、39 億 7,600 万円という数値を記載したい。

会長：ではこの数値は記載のままとしたい。

委員：22 ページの具体的な事業で挙げてあるのはあくまでイメージという認識で、現在の令和 6 年度の取り組み状況や実績は市がまとめた資料を基に審議させていただいているが、第二期ビジョンでも記載されている取り組み例みたいなものがまずは出てきて、このような資料が作られるという認識でいいか。あるいはそういうものは無くなるのか。

事務局：年間の評価についてのご意見かと思う。年間の評価は毎年引き継いで事業の一覧表のようにしているが、この部分については第二期でも引き継いでいきたいと思っている。

委員：そこは引き続き同じような項目で取られるのか、それとも今回新たなビジョンに記載されているような取り組みが追加で入ってくるのか。

事務局：参考資料 1 で付けている部分については引き続き同じような形式にして、事業の評価の際には別の資料を作るほうがわかりやすいのではないかとと思っている。

委員：承知した。

会長：今の質問で気づいたが、22 ページの表の取り組み例がかなり細かく書いてあるのに対して、具体的な事業は大きくくりな印象だ。しかもこの具体的な事業は一人歩きしていいものとそうでないものがあるように思う。例えば「公式 LINE を活用した情報発信」は来年度も本当に本気でやるのか、などだ。LINE 以外の方法をもっと考えた方がいいのかもしれないし、この具体的な事業というのが却って思考を狭めるような気がする。具体的な事業の欄を取ってしまったほうがわかりやすく、また来年度縛られなくていいのではないか。むしろ取り組み例をきちんと読んで、ここで足りてないものをちゃんと入れておくことが必要かなと思う。

他にも、例えば馬に関する事業が取り組み例に載っていない。基本戦略 1 の「自然や歴史文化に触れる観光の促進」の項目に馬が出てくるが、栗東市にとっての馬というのは自然や歴史文化とは違うものだろう。むしろ市民が地域の

にぎわいを実感できるとか、持続可能な観光の促進、あるいは推進体制の強化といったところに関係してくるので、例えば基本戦略2 基本事業（1）の「地域一体で取り組む観光産業の育成・高付加価値化」という項目の中の取り組み例として、健康運動公園内のホースパーク整備を入れてはどうか。
つまり「具体的な事業」と「取り組み例」を統合する方向で整理したほうがいいのではないか。

（会場の反応を確認）

よろしいですか、では事務局と細かくやり取りをしたうえで、会長の権限でこの「取り組み例」と「具体的な事業」を一体化させて、よりわかりやすく、かつ実態とかけ離れた案件が残らないように整理させていただきたい。

委員：22 ページの実施主体について、先ほど事務局からは理由があって「市」という表記にしているという説明があったが、20 ページの下段にビジョンの推進・評価体制の図があって、具体的に「栗東市の観光担当部局」と記載されている。20 ページが「観光担当部局」なら、22 ページの「市」も「観光担当部局」にすれば明確になるのではないかと。
また「関連部局とのワンストップ窓口」という言葉も、26 ページの用語解説では「一か所で手続きやサービスが受けられる環境や場所」とあるので、このあたりは修正する必要はないかと。

事務局：22 ページの事業主体は、先ほども申し上げたように他の課が全く関与しない状況になることを危惧するので、全体的に市が行うということで「市」で問題ないと思う。20 ページは、どの課が評価するかとなると明らかに観光担当部局、現在は商工観光労政課が担うことで間違いないので、観光担当部局という形ではっきり記載すべきと考えている。

委員：では20 ページの「関連部局とのワンストップ窓口」はどうなのか。

会長：これは商工観光労政課にワンストップ窓口としての機能を果たしてください、この役割を忘れないでという観光振興会議としてのお願いの意味でこのような表現になっている。ワンストップ窓口は常に他の部局との調整をしなければならないので、課の中の人員配置をどうするのかを考えてくださいということだ。来年度は、ワンストップ窓口としての体制を我々は改めて聞かなければならないと思う。
ワンストップ窓口は「課」であり、実施主体は課を中心として調整した市全体であるという整理だ。市は行政体として一体なので、対外的な契約主体は市で

あるということからも、22ページの表の表記は「市」でいいだろう。20ページの観光担当部局は商工観光労政課としても問題ないと思うので、修正させていただきたい。

会長：評価の方法について、20ページの2の①で、「同会議は市が策定する（中略）活動が実施できているかを年度ごとに確認・評価します」とある。ということは、毎年策定される事業一覧に対して、事業ごとにどのように評価するのかを事務局から説明いただき、それに基づいて年度末に確かにうまくいきましたねとか駄目でしたねということの評価する、そんなやり取りになるのではないかな。評価軸の設定については、知見を持つ人間が私を含めて委員にいらっしゃるので、各方面からノウハウを吸収していただき、事業ごとにふさわしい評価指標をその都度考えて提案していただきたいと思う。では、全体を通じていかがだろうか。

事務局：22ページについて、先ほど「取り組み例」は非常に具体的だが「具体的な事業」は大きくくりであり、実施主体も「市」なのかどうか、という話があった。これは20ページ〔2〕に関係している。今会長が読み上げた2の①の2行目「同会議は市が策定する『第二期観光振興ビジョンに基づく事業一覧』等を用いて」、つまりこの22ページの表などを用いて、「商工観光労政課を初めとした栗東市が第二期ビジョンに基づいた活動が実施できているか」を来年度以降に開催される会議で評価するという話だ。そのため、22ページの右三つの項目「具体的な事業」「実施主体」「期待される効果」は、今の段階では空欄となるのだが、わかりにくいのでイメージが記載されているとご理解をいただければと思う。そのため、21ページの「スケジュール」に記載している来年度の5月・6月の第1回会議では、22ページ「資料」に具体的な事業を入れたものを使って、その年度の方向性の確認と個別事業の共有・検討を行うこととなる。市が行う事業だけでなく、観光協会の事業や商工会・民間企業が観光関連の事業も含めて、このビジョンに沿っていろんな観光の計画を立てて、それを市が全体を把握してこの表にまとめ、会議ではこの事業をやるのであればこういうことを目指すべきだといった方向性の共有や、こんな事業をするのなら一緒にやろうよという議論が起こるかもしれない。そのために、22ページの表、左の1列目から4列目は、第二期ビジョンの内容を記載している。このビジョンに沿った具体的な事業が実施されているかについては、委員の皆さん方がこれから実施する個別事業を当てはまる部分にプロットし、それについて期待する効果はこうであるとする。そうやってできた資料を、21ページのスケジュール記載の8月・9月の第2回会議で中間評価をしていただく。最後の第3回ではこ

の資料に基づいて、年度の最終評価をやっていただくことになる。

会長：今のお話では、20 ページの本文中、真ん中辺りに「第二期観光振興ビジョンに基づく事業一覧等を用いて」の事業一覧とは22 ページの表であるということだった。私はそのように理解していなかったため、20 ページに出てくる事業一覧というのは、あくまで毎年、市の方で決めていただく事業のリストにすぎないのではないかと思っていた。そこに立ち返って、修正提案したい。

20 ページの2の①の2行目を「同会議は、市が策定する事業計画について商工観光労政課をはじめとした栗東市が第二期ビジョンに基づいた活動が実施できているかを年度ごとに確認・評価します」と修正したい。つまりカギカッコの中をなくして、「市が策定する事業計画」という表現にする。その上で、22 ページの表の名称を「第二期観光振興ビジョンの概要」としていただき、22 ページの内容と20 ページの内容が直接結びつかないようにしたい。

22 ページはあくまで全体を見渡すための概要表にして、具体的な事業については毎年、各年度に事務局から提案いただくということにしておきたいと思うが、いかがだろうか。

事務局：概要表は、すでに19 ページでビジョンをまとめて俯瞰できる体系表として掲載している。ここで一旦ビジョンは終わって、20 ページ以降では、ビジョンはできたが、実際に観光か事業をするのは栗東市だけではなく、市内の各主団体や市内で商売している方々ということになるという視点で、20 ページ記載の「第二期観光振興ビジョンに基づく事業一覧」は市内で行われる観光振興の個別事業を市が一覧化するようなイメージで理解していた。そのため、具体的な事業の欄は現段階で決まっている事業は書けるが、そうでない事業は書けない状態だ。20 ページ以降は、どうやって回していくかという点をより明確にビジョンの中に書いたほうが今後の動きを互いに共有でき、市も担当が代わってもしっかり回っていくのではないかという意味合いだ。

会長：今事務局が話したとおりで、その時々に関内で起こるいろいろな動きと連携しながら動いていくほうがいいよねということだと思う。また、あるべき姿とやるべきことを常に柔軟にチェックしながら進んで行けるようにしたほうがいいのではないかと問題意識で、それを表現したいということに私も同感だ。

だとすると、22 ページで5年間かけて行う「具体的な事業」として並べてしまうと、これがプログラム化されてしまって、その都度臨機応変に動くことが逆に難しくなるのではないかと感じている。

その上で、22 ページの資料のタイトルが「第二期振興ビジョンに基づく事業一

覧」だと、「具体的な事業」という項目がないと困るという話になってしまう。なので、タイトルを「第二期観光振興ビジョンの概要」とし、「具体的な事業」の欄も無くして、「取り組み例」と統合したほうがいいのではないかな。

事務局：22 ページは今使う資料というよりも、次年度以降、皆さんが議論していただくときの資料という位置づけだ。策定したビジョンに基づいて、今後どのようにしてビジョンに近づく活動ができているか、回していくかというとき、左半分にはしっかりビジョンが書いてあって、右半分に今年度どんなことをするか、中間では進捗はどうか、最終的には期末にどうだったかを確認し、それを踏まえた上でまた2年目に入るというPDCAを回すための見える化する資料の一つがこの22ページであるということだ。ビジョン策定に22ページが必要かというとは必要ではないが、この資料によって委員の皆さんがイメージでき、しっかり評価していただき、PDCAを回していただく、そのための資料になるものと考えている。

会長：22 ページ記載の「具体的な事業」が向こう5年間で拘束するものであってはならないというところをまず確認したいと思う。なので「具体的な事業のイメージ」というふうに言葉を補ってはどうか。

事務局：その部分は「令和7年度の事業」としてはどうか。令和7年度の事業はほぼ固まっているので公開できるものは概ねこの欄に落とし込める。観光協会の事業もある程度固まってきたであろうし、他の各種団体の事業などを見える化して、ビジョンのめざすところに沿った成果となっているかを評価していただければ、この資料は成り立つと思う。

会長：では22ページの「具体的な事業」は「令和7年度の具体的な事業のイメージ」に修正したい。その上で20ページの2行目「市が策定する～」という部分は「市が策定する毎年度の事業計画について」としたい。

評価するときは必ずしも一覧に基づかなくてもいいので、評価対象は事業計画であるということを20ページでは言っていると思う。改めて確認だが、20ページの2の①の2文目には、栗東市観光振興会議は、商工観光労政課を初めとした栗東市が活動を実施できているかどうかを年度ごとに確認・評価するのが役目だということが書かれている。そのとき、何を評価するのか、あるいは何に基づいて評価するのかを書いているのが、「市が策定する～」という部分だ。この評価が何に基づくかは、事業一覧というものもあっていいと思うが、それよりも、事業計画があって、それに対してどういう予算がついているか、どうい

う部局が動いているのかということに基づいて評価しないといけないと思う。なので「事業一覧を用いて」よりも「事業計画について」としたほうがいいように思う。

事務局：現状の事業一覧を事業計画と考えるほうがわかりやすいと思う。

会長：行政で事業計画というと、部局ごとに多くの事業を組成して、財政部局に対して予算要求するという手続きを行うと思う。観光振興であれば、例えば、観光振興関連のトイレの整備事業や、観光振興に対するホースパークの整備事業など、必ず何々事業と名前が付いているだろう。それは、担当部局、予算、誰と連携しながら何をするかが一つずつ書かれている。それを束にしたものが予算案として議会などに出てくる。私が言う事業計画というのはそのことで、個々の事業という意味だ。個々の事業には特色があるが、それをエクセルで一覧表にしてしまうとそれぞれが何をやろうとしているのかわからなくなる。なので、次年度こういう事業を行いますという計画を立てていただき、それを見せていただいて、いいですね悪いですねとか、こんなふうに自己的に評価するようにしましょうかなどと考えていくのがこの会議の役目であろうと思っていた。会議体の役目はあくまで栗東市に対する評価で、栗東市を通じて観光協会や他の自治体などとの連携が見えてくる。実際には民間などのいろんな動きと重なり合って動いていくわけだが、振興会議としては、市の仕事に対してこうしてください・しないでくださいというのが役目だと思っている。

なので、20 ページの2の②、2文目は「同会議は栗東市が第二期ビジョンに基づいた活動が実施できているかを年度ごとに確認・評価します」としてはどうか。いいだろうか。

先ほどおっしゃった、民間の動きや市民活動なども、全体を俯瞰して連携をしながら見える化しながらやっていこうというのはすごく大事なことなので、振興会議というよりも栗東市観光協議会みたいなものができれば、その役割を担うことになると思う。

会長：そろそろ予定時間を過ぎたが、パブリックコメントまでの細かい文言修正については会長および事務局に一任いただき、素案を承認いただきたい。

事務局：今後について。パブリックコメントを令和7年4月頃に予定しているので、その後、もう一度会議を開催して、パブリックコメントの意見を受けたものを結果報告させていただきたい。パブコメ前の各課照会や庁内会議などで出た意見で変更が必要になった場合は、都度連絡させていただく予定だ。

会長　：パブリックコメント終了後に最終成案ができると思うが、その成案の承認手続きは来年度1回目の会議で行うことになると思う。さらにそれに基づいて令和7年度の具体的な事業計画を承認する手続きは第1回でやることになるのか、第2回だろうか。

事務局：第二期ビジョンが成案化してからの作業にさせていただきたい。

会長　：そうですね。来年度は年度後半しか事実上動けないということになるが、それに関わらずやるべきことはどんどんやっていただければと思う。では、素案は修正して承認いただいたということさせていただきたい。

事務局：委員の任期について、2年間の任期が今年度末で満了となるため、来年度の委員についても引き続きそれぞれにご依頼をさせていただきたい。第二期ビジョンが策定途中ということもあり、引き続きご協力いただければと思います。よろしく願いいたします。

会長　：最後に報告事項の「観光案内所の運営状況について」に関して事務局にお願いしたい。結果の報告は毎年あるが、今年度の計画の提案がないので、内容がいいのか悪いのか何とも言えないというのが繰り返されている。来年度は計画と結果の報告をぜひお願いしたい。

6. その他

とくになし

7. 閉会

(田中副会長によるあいさつ　省略)

以上